建設業 しんこう
Jul./Aug.2023
7·8
No.550

建設産業の今を伝え未来を考える

特集

厚生労働省 建設労働者育成支援事業

～事業の概要と訓練修了生等のインタビュー～

今月のCCUS
更新手続き、始まります!

建設キャリアアップシステム
人を大切に育てる新しいシステムです
事業者･技能者みなさまのご登録をお願いします
一般財団法人 建設業振興基金

第28回

建設業経営者研修

どうする建設業!?

～残業規制と働き方改革、人材確保に向けて～

参加無料

一般財団法人 建設業振興基金

日時 9/22(金) 13:30 ～(開場 13:00)　**会場** 木材会館(新木場駅 徒歩3分)

2024 年より建設業にも残業規制が適用されます。働き方改革と人材育成に積極的に取り組む優良企業の事例紹介等を通じ、皆様の経営改善の参考になれば幸いです。是非、ご参加賜りますようお願い申し上げます。

13:40～15:00 | 働き方改革は経営戦略

講師 櫻井 好美 氏 （社会保険労務士法人アスミル代表）

働き方改革の本来の意味は「早帰り運動」ではなく「生産性」をあげていくことです。生産性をあげていくためには、従来の仕事のやり方の見直し等経営判断を伴うことがあります。働き方改革を単なる労働法の改正と捉えるのではなく、労働環境を変える絶好のチャンスの時期と捉え、業務のやり方を改善していくことが重要です。この機会に労働環境を整えて働きやすい職場づくりをしていくことが、人材定着の第一歩になります。

profile

大学卒業後、一般企業での営業事務、その後コンサルティング会社での営業職に携わり、30 歳を目前に自分のこれからの生き方を考えた時に「社労士」という資格に出会い、資格取得後、実務経験のないまま開業をし、今年で21年目を迎えます。現在では、建設業特化の社労士事務所として、日常の労務管理のサポート、就業規則の作成、評価制度について会社作りのお手伝いをしています。その他大手ゼネコン、建設業協会、専門工事業団体等のセミナー講師としての活動もしています。

15:10～15:50 | 建設ディレクターが建設業界の働き方を変える

講師 新井 恭子 氏 （一般財団法人 建設ディレクター協会 理事長）

建設ディレクターとは、IT スキルとコミュニケーションスキルでバックオフィスから現場を支える建設業における新しい職域です。従来の役割を超えて多様な人材が活躍することが現場担当者の長時間労働の軽減や、業界全体の活性化につながると考えます。講演では、建設ディレクター事業及び活躍事例、チームで施工管理をする体制づくりにむけて必要な環境整備についてご紹介いたします。

profile

地域建設業のお客様にIT 導入コンサルティングを行ってきた経験を基に、教育事業を展開。バックオフィスから現場を支援する新しい職域「建設ディレクター」の構想を創出し、地域の中小建設会社に向けて効果的なICT 活用やチームで現場を管理する仕組み作りの事例紹介を行っている。2019 年 京都府「女性起業家賞最優秀知事賞」受賞。

15:50～16:50 | 働き方改革等に関する優良事例のご紹介

令和4 年度 建設人材育成優良企業表彰 国土交通大臣賞受賞企業

講師 草野 量文 氏

草野作工株式会社（北海道） 代表取締役専務

ニュー 6K（給料、休暇、危険回避、絆、きれい、カッコ良い）をスローガンに掲げた職場環境改善の実施。

講師 黒木 繁人 氏

旭建設株式会社（宮崎県） 代表取締役社長

残業禁止や完全週休2日制のほか、働き方改革を幅広く実践。CCUSレベルによる給与引上げの導入をはじめ、県内建設企業のICT推進も牽引。

16:50～17:20 | 登壇者と参加者による意見交換会

17:30～19:00 | 交流会（お飲物をご用意します）

会　場 木材会館 7 階檜ホール
〒136-0082 東京都江東区新木場1丁目18-8　TEL：03-5534-3111

対　象 中小企業の経営者、経営後継者、経営幹部の方／定員：180名

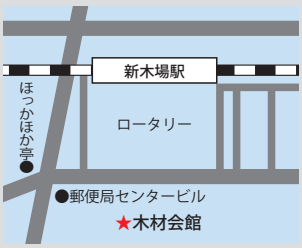
お問合せ （一財）建設業振興基金　経営基盤整備支援センター経営改善支援課　TEL：03-5473-4572

申込期日 令和5年 9月15日（金）（定員になり次第終了）

お申込み 以下のURLからお申込みください
https://www.kensetsu-kikin.or.jp/management/keieishakenshu/

※キャンセルされる場合、お早めのご連絡をお願いいたします／インターネットからのみお申込みいただけます

お申込みはこちらでも



建設業 しんこう
建設産業の今を伝え未来を考える
Jul./Aug.2023
No.550
7·8

編集・発行
一般財団法人 建設業振興基金　〒105-0001
東京都港区虎ノ門4-2-12虎ノ門4丁目MTビル2号館
TEL：03-5473-4584　FAX：03-5473-1594
URL：https://www.kensetsu-kikin.or.jp/

CONTENTS

特集
厚生労働省
建設労働者育成支援事業 02
～事業の概要と訓練修了生等のインタビュー～
- Ⅰ 事業概要
- Ⅱ 訓練カリキュラムのご紹介
- 建設専門工事業 合同体験フェア2023
- 修了生&採用企業 インタビュー

FOCUS
工業高校紹介
神奈川県立横須賀工業高等学校 08
- インタビュー：山下 敦 先生

PRESCRIPTION
日本経済の動向 10
- 米国の大統領選挙を占う3つのポイント

建設経済の動向 11
- 建設業界にも押し寄せる生成AIの大波

連載 2024年まで残りわずか!!
働き方改革への最終チェック 12
- 【第4回】生産性向上への取組

連載 **クイズ 名建築のつくり方** 14
- 【第12回】House & Restaurant

お役立ち連載
建設キャリアアップシステムを活用しよう!【第10回】 16

いつでもチェック!!
建設業しんこうWeb
建設産業の今を伝え未来を考える
『建設業しんこう』はWebでもご覧いただけます。

しんこうWeb 検索
https://www.shinko-web.jp/
メルマガ登録はコチラから!

「建設業しんこう」に関するご意見・ご要望
TEL：03-5473-4584（企画広報部）
MAIL：kikaku@kensetsu-kikin.or.jp

【建設業しんこう編集委員】
東洋大学理工学部建築学科教授　浦江真人
国土交通省建設市場整備課長補佐　堀越崇志
(一財)建設業振興基金専務理事　黒田憲司
国土交通省建設業政策企画官　御手洗哲郎
日経クロステック建設編集長　浅野祐一

印 刷：日経印刷株式会社
◎本誌記事の無断転載を固く禁じます。

特集

厚生労働省

建設労働者育成支援事業

～事業の概要と訓練修了生等のインタビュー～

一般財団法人　建設業振興基金

Ⅰ 事業概要

1. 建設労働者育成支援事業とは

（一財）建設業振興基金（以下、「本財団」という）では、令和5年度、厚生労働省からの委託を受け建設労働者育成支援事業を実施しています。本事業は建設技能労働者の確保・育成対策の一つとして、建設業への就業を希望する離転職者、新卒者、未就職卒業者を全国各地で募集し、職業訓練（座学・実技講習＋資格取得）と就職支援を無償で行うものです。

本事業は平成27年度から令和元年度まで実施された建設労働者緊急育成支援事業（本財団が5年間受託）の後継事業で、令和2年度から3年間の時限措置として実施されましたが、更に令和5年度から2年間、実施が延長されました。

令和5年度は本財団内に中央拠点を設置するとともに地域の総合建設業団体、専門工事業団体等の協力を得て14の地方拠点を設置し、40コース以上の訓練を実施予定です。また訓練修了後は業界団体と一体となって訓練修了者の就職をバックアップします。

2. 事業目標

事業実施にあたり、厚生労働省より以下の事業目標が設定されています。

訓練参加者数：**300**名以上

訓練修了者数：訓練参加の**90**%以上

就職者数：訓練修了者の**70**%以上

令和2年度から令和4年度の本事業は本財団が受託し、3年間、いずれも事業目標を達成しました。

令和２年度～４年度実施状況

	受講者数		訓練修了者数		訓練修了後3カ月以内の就職者数	
令和2年度	512名	500名	498名（97.3%）	受講者の90%以上	357名（71.7%）	訓練修了者の70%以上
令和3年度	438名	400名	412名（94.1%）	受講者の90%以上	297名（72.1%）	訓練修了者の70%以上
令和4年度	351名	300名	340名	受講者の90%以上	257名（75.5%）	訓練修了者の70%以上

の数字は事業目標

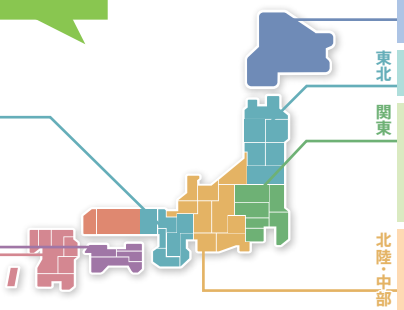
中央拠点（一財）建設業振興基金

地方拠点

近畿
- 大阪府（一社）全国クレーン建設業協会大阪支部
- 兵庫県（一社）兵庫県建設業協会

四国
- 香川県（一社）職人育成塾
- 高知県（一社）高知県建設業協会

九州・沖縄
- 福岡県（一社）福岡県建設専門工事業団体連合会
- 沖縄県（一社）沖縄産業開発青年協会



北海道
- 北海道（一社）北海道建設業協会

東北
- 宮城県（一財）みやぎ建設総合センター

関東
- 東京都（一社）全国基礎工事業団体連合会
- 東京都（一社）日本機械土工協会
- 神奈川県（一社）全国クレーン建設業協会神奈川支部

北陸・中部
- 新潟県（一社）北陸建設アカデミー
- 愛知県 建設産業専門団体中部地区連合会
- 愛知県（一社）全国クレーン建設業協会愛知支部

事業スキーム

募集

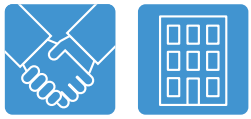
ハローワークに設置するパンフレット及びホームページで訓練生を募集

職業訓練

- 総合工事企業（建築系・土木系）技術者育成コース
- 専門工事企業（躯体系・仕上げ系）技能者育成コース
- 重機・クレーンオペレーター育成コース

業界団体・教育訓練施設と連携し、就職に繋がる訓練を実施

就職支援



業界団体の会員企業等への就職支援

II 訓練カリキュラムのご紹介

本事業では躯体や内装、設備といった各職種の技能者育成、建設機械オペレーターの育成など幅広い訓練コースを実施しています。現在募集中の訓練コースを一部ご紹介いたします。

訓練カリキュラムと取得できる資格の例

試験があります。

あいちクレーン塾（愛知県）

訓練期間：令和5年9月26日～11月４日

	入校式・オリエンテーション	1日間
資格取得	**大型特殊免許教習**	8日間
資格取得	**玉掛け技能講習**	3日間
	社会人モラル・ビジネスマナーアップ講習	1日間
	安全教育（建設業基礎）	1日間
	安全教育（クレーン）	1日間
	安全教育（クレーン業界について）	1日間
	クレーン実技教習オリエンテーション	1日間
資格取得	**移動式クレーン運転士実技教習**	6日間
	移動式クレーン運転士学科準備講習・自習	9日間
資格取得	**移動式クレーン運転士学科試験**	1日間
	クレーン車実機訓練	1日間
	修了式	1日間

※普通自動車第一種運転免許保有者の方が対象となります。

クレーンオペレーターに必要な資格取得に加えてビジネスマナーやコミュニケーション力を身につけることができます。

職人育成塾（香川県）

訓練期間：令和5年10月2日～11月16日

	入塾式・オリエンテーション	1日間
	座学・モックアップ制作	13.5日間
資格取得	**足場の組立て等特別教育**	1日間
資格取得	**フルハーネス型墜落制止用器具特別教育**	1日間
資格取得	**丸のこ等取扱作業従事者安全衛生教育**	1日間
	座学（事故事例）	0.5日間
	面談1：自分に合うと思う職種を2～3職種に絞り込む	随時
	専門工事実習 ●それぞれが興味のある職種をより深く実習を受ける ●1日に数講座開設、少人数でより専門的実習を体験 ●将来の仕事を決めるため、真剣に訓練を受ける	8日間
	現場見学会	0.5日間
	面談2：最終的に自分のやりたい職種を決めて企業面接に臨む	1日間
資格取得	**フォークリフト運転技能講習（1t以上）**	5日間
資格取得	**玉掛け技能講習**	3日間
資格取得	**高所作業車運転特別教育（10m未満）**	1日間
	修了式	1日間

職人育成塾で学べる内装9職種

❶軽天・ボード貼り工事 ❷クロス・床貼り・金物工事 ❸タイル工事
❹左官工事 ❺耐火被膜・断熱工事 ❻塗装工事
❼防水工事 ❽設備工事 ❾木工事

マンションの一室に見立てたモデルルームの制作を通じて内装9職種を体験し、自分にあった職種をみつけることができます。

育成支援事業の訓練生も参加！

レポート

建設専門工事業 合同体験フェア2023

（建設産業専門団体 中部地区連合会主催）

『職人体験を通じて建設業のミリョクを知ろう！』を合言葉に、5月25・26日の2日間にわたりポリテクセンター中部（愛知県小牧市）にて開催された建設専門工事業合同体験フェア。東海エリアの工業高校・専門学校の生徒を中心に延べ約300名もの参加者が集い、賑わいを見せました。26日には建設業基礎コース（重機オペレーター）の訓練生も参加し、鉄筋や圧接、型枠やとび・土工などの様々な専門工事を技能者の指導のもとで体験。建設業の楽しさややりがいを実感する、貴重な機会となりました。

会場では、型枠・鉄筋・とび・内装・タイル・塗装・左官・ダイヤモンド工事・圧接・クレーン・重機・PCの専門工事業団体が体験ブースを出展。各40分の実習を通じて、日常では体験できない様々な仕事・技術の体験機会を参加者に提供しました。

技能者の指導のもと、多彩な専門工事を体験！

鉄筋

鉄筋組立を体験。簡単そうに見えて、じつは難しい！

型枠

コンクリート造に欠かせない、型枠組立に挑戦！

タイル

技能者を手本にタイル貼りを体験。繊細さが求められる作業。

圧接

映像では伝わらない熱さも体験できた鉄筋ガス圧接。

PC

体重をのせて、頑強なPC板の強度を体験！

とび・土工

とび・土工の仕事の1つ、鉄骨建て方工事を体験。

多くの工業高校生・専門学校生も参加した合同体験フェア。重機やクレーンの操作、左官の仕事なども体験して建設業の魅力にふれるとともに、技能者との会話を通じて理解を深め、盛況のうちに幕を閉じました。

合同体験フェアを終えて／参加した訓練生に感想などを伺いました！

厚生労働省 建設労働者育成支援事業
建設業基礎コース
（重機オペレーター）訓練生
内山 想麻 さん

体験を通してはじめて知った技術の高さ

建設業（鉄筋工事業）に携わる父の仕事を見てきたので、鉄筋については理解していたのですが、PCや型枠などはじめて知ることや「こんなに繊細な技術が必要なのか！」と驚くことも多く、良い経験になりました。わずかな時間でこれだけの職種が体験できる機会は、本当に貴重だと思います。また様々な職種が連携して建物や構造物が生まれていくことを改めて感じることもできました。将来は会社を立ち上げ、木造住宅の基礎から大規模建造物まで、様々な仕事に挑戦したいと思っています。技術と経験の大切さを実感できたこのイベントは、自分にとって非常に意義のあるものになりました。

厚生労働省 建設労働者育成支援事業
建設業基礎コース
（重機オペレーター）訓練生
山本 修平 さん

あらゆるものに建設業が関わっていると実感

合同体験フェアに参加して実感したのは、建設業の仕事が想像していた以上に身近にあるということ。橋や建物、一つひとつに職人の方が携わっているということが改めてよくわかりました。また体験を通して様々な職種に興味がわきましたが、その中でもタイル貼りは以前から関心をもっていた仕事の一つでした。この経験が将来につながるよう勉強を進め、より特化した能力や技術を身につけていきたいと思います。同じ訓練生の中にも、建設業を経験された方をはじめとして様々な職種・世代の方がおられ、皆さんといっしょに学べる環境が自分にとってとても大きな経験になっています。

講師の方の声　大きなやりがいを感じられる仕事。ぜひ業界に飛び込んでみてほしい！

一般の方に「とび・土工の仕事とは？」と聞けば、パッと思い浮かぶのは足場を組む姿ではないでしょうか。実際は足場以外にも、現場の仮囲いや重機・車両のための走路を作るなど、多岐にわたる活躍が求められる“マルチプレイヤー”。現場を動きながら様々な業種の架け橋になる、奥深さと面白さがある仕事です。単にそうした作業を見るのと、実際にやってみるのとでは感じるものも違います。体験を通して、とび・土工の魅力がより伝わればと思っています。建設業は、関わったものを後世に残すことができる仕事であり、暮らしを守れる仕事でもあります。ぜひ一度体験し、この業界へと飛び込んでみてほしいですね。

とび・土工講師
親和建設株式会社
代表取締役
後藤 寛明 さん

活躍する訓練修了生！

修了生＆採用企業 インタビュー

コテやローラーを巧みに操り、床・壁・柱などを美しく仕上げていく左官の仕事。福満明実さんは合同体験フェアに参加したことをきっかけにその魅力にふれ、左官の道へと進んだ令和４年度の訓練修了生です。訓練で得た経験を活かしながら、建設現場で日々奮闘する福満さん。そしてその成長・活躍に期待を寄せる、横井業務店代表取締役の横井さんにお話を伺いました。

様々な仕事を経験した後に見つけた建設業

訓練に参加する以前は、スポーツセンターのインストラクターや店舗スタッフなど、デスクワークも含めて様々なアルバイトをしてきました。あるときマンションのタイル貼りを手伝ったことがあり、「こんなふうに体を動かせる仕事がしたい」と感じたのが建設業に興味を抱いたきっかけです。ハローワークで相談したところ、玉掛けの資格があれば紹介範囲が広がると伺ったのですが、その時点ではどういった職種に進むかは正直漠然としていて…。そんな中で建設技能を体験できる合同体験フェアや資格取得につながるカリキュラムが組まれていた建設業基礎コース（重機オペレーター）を見つけ、「多くの職種を知る中で、やりたい仕事が見つかるかもしれない」という思いから応募し、訓練を受講しました。

合同体験フェアで出会った左官の道

訓練の中で印象に残っているのは、バックホウを操作する講習です。はじめての操作体験で、運転席に座ったときの迫力にも驚きましたね。また訓練生の中には内装の仕事や造園の仕事、電気工事士の方など、建設業に携わっていた方々もいて、それぞれの現場がどういった仕事なのか、どのような苦労や喜びがあるのかなど、様々な経験談を伺うことができました。資格取得につながる講習だけでなく、周りの皆さんとつながりを持てたことが、訓練を通して得られた大きな収穫です。

そして今の自分につながっているのが、合同体験フェアで左官の仕事に触れたことです。漆喰をパネルに塗る作業を体験したのですが、パターン付けや模様付けなども左官の仕事だと教えていただき、その幅広さと面白さを知りました。訓練の最終日には著名な左官職人の方の映像も見せていただき、「こんなに多彩で表現豊かな壁を塗る方がいるのか」と衝撃を受け、左官への憧れがますます膨らみました。

日々の学びと経験を積み重ねて

横井業務店に入社後は、はじめての現場に入り、職長をはじめ周りの皆さんからいろいろなことを学ばせてもらっています。また訓練を通して玉掛けや高所作業に必要な資格を取得できたので、それを活かした作業なども行っています。

今の目標は、まずは左官技能士2級、そしてゆくゆくは左官技能士1級の資格を取得すること。この4月から週に1度、愛知県左官高等職業訓練校にも通い、同じ目標を持った仲間と励ましあいながら目標に向かって進んでいます。よりスケールの大きな現場を任されるよう力を身に付け、重要文化財を扱う現場などにも携わっていければと思っています。

訓練への参加を迷われている方には、「まずは恐れず飛び込んでみてほしい」と思います。特に建設業に関わりのない方にとっては、建設業というと以前の「3K」のイメージがどうしても強いと思うのですが、今の現場ではそうしたことはなく、業界全体も現場をより良いものにしていこうという雰囲気が高まっています。ぜひ訓練に参加して、建設業の魅力を感じてほしいです。

現場経験と学びによるステップアップ

横井業務店は私の祖父の代からスタートし、創業して来年でちょうど100年になります。大手建設会社などをお取引先として左官工事に携わっており、福満さんが今入っているのもそうした現場の一つです。現場では資材の運搬や材料の配合、

簡単な補修などの基本的な作業から入り、左官の仕事を学んでもらうようにしています。あわせて左官の訓練校にも通うことで、左官に必要な知識や伝統的な技術といったものを習得し、将来的には左官技能士1級や登録左官技能者資格の取得、建設キャリアアップシステムのゴールド（レベル4）を目指すなど、ステップアップを図ってもらえたらと思っています。

人材の定着という面でも期待

訓練修了生を採用するメリットを挙げるならば、まず何よりも「興味を持って入社してくれる」ということに尽きます。職業訓練や合同体験フェアを通じて様々な職種があることを知ったうえで、数ある選択肢の中から当社に興味を持ち入社してくれる、そうした強い思いを持って入社してくれるということが一番ではないでしょうか。

それと同時に重要なのが、それだけ多種多様な職人・業者がいる職場であること、何十人・何百人もの人々が動く現場であるということを理解したうえで入職を希望される方であるということです。建設業というのは労働集約型産業で、多くの職種が集まって一つのものを築いていく仕事。周りの職人や関係者とのコミュニケーションは必須と言えます。そうしたことを踏まえたうえで建設業に入ってくれるのはありがたいことですし、一番の強みとも言えますね。入職したけれど「こんなはずじゃなかった…」とイメージとのギャップに苦しんでしまうのは、本人としても周りとしても望ましくありません。今やほとんどの企業が人材の確保に悩んでいますが、「人材の定着」という観点で考えても、訓練修了生の方はそうした期待に応えてくれるものと思います。

活躍を広げる訓練修了生

訓練修了生として当社に入社し、職長として活躍している方はすでに何人もおられます。その中でも建設キャリアアップシステムのゴールド（レベル4）の方が２名おられ、そのうち1名は女性の方です。左官でゴールド（レベル4）というのは、おそらく全国でも数える程度ではないでしょうか。そうしたことも現場で着実に成果を出している証だと思います。

福満さんは職業訓練を通して、玉掛けや高所作業の資格を取得されていました。採用の際にはそうした能力面ももちろん重視したのですが、自分のことをストレートに表現できる人間性が何よりも魅力でした。「この人ならきっと頑張ってくれる」と感じさせてくれたことが、いっしょに働こうと決めた理由です。ぜひこれからも成長し、活躍を続けてほしいと思います。

株式会社横井業務店
福満 明実 さん
厚生労働省 建設労働者育成支援事業
令和４年度修了生

株式会社横井業務店
代表取締役
横井 良彦 さん

株式会社横井業務店〈愛知県〉
愛知県名古屋市にて左官工事などを手掛ける、1924年（大正13年）創業の横井業務店。高層ビルや工場、公共施設などの大規模な開発から、歴史ある文化財の修復などまで様々な工事に携わり、「左官の技」を発揮しています。

訓練コースや応募方法の詳細はホームページまたは全国のハローワークで配布している広報誌「建設業ウェルカム」をご覧ください。

建設業　ウェルカム　検索

https://kensetsu-welcome.com

第93回

FOCUS

快適に学べる最新の機器や実習室を整備。地域と連携した『デュアルシステム』で生徒を育む!

2022年、従来あった機械科・電気科・化学科に加えて、土木・建築を専門的に学ぶ建設科を新設した神奈川県立横須賀工業高等学校。同校では地域の建設業協会と連携し、実践的な学びを育むために長期間の現場実習を取り入れた『デュアルシステム』に取り組み、工業教育の充実を図っています。その取り組みから見えてきたものや、生徒に向ける想いについて、建設科の山下敦先生にお話を伺いました。

神奈川県立
横須賀工業高等学校
建設科
山下 敦 先生

業界・地域の期待を担う建設科の誕生

建設産業界での人材確保・育成が急務となっている昨今。横須賀建設業協会が中心となって神奈川県に要望を上げたことが、建設科新設のきっかけとなった。

「全国的にも工業高校の統廃合や学科の再編などが目立つ中で、新設は珍しいこと。特に建設という分野に関しては稀なケースではないでしょうか。それだけに建設科への注目度や期待の声も高く、横須賀市内外の企業の皆さまや、出前授業に来ていただいている横須賀市役所や神奈川県横須賀土木事務所の方々なども、強い興味を示されています」。

建設科の立ち上げに際しては、最新の機器・機材を導入したほか、新たに建設科実習棟(2023年3月完成)を設けた。

「本校建設科の魅力は、何と言ってもすべてが新しいこと。測量機器は企業の方などからも“こんなものまで!?”と驚かれる最新のものを揃え、生徒が気持ちよく学べる新しい設備にこだわりました。地域の方々や入学を検討する中学生たちにも、ぜひ目にしていただきたいです」。

『デュアルシステム』から見えてきたもの

建設科の大きな特徴の一つが、現場実習の年間プログラム『デュアルシステム』の取り組みだ。これは2年生時に月2回程度、1日6時間分(年間120時間分)の長期間の現場実習を横須賀建設業協会・神奈川県建設業協会横須賀支部と連携して行うもの。施工現場の見学や協会会員企業・市役所・県でのインターンシップなどに加え、測量や図面の作成、アスファルト舗装などを通して、生徒たちの実践的な学びを

測量実習 基本も最新も体験!

この日は1年生の測量実習(距離測量)を他の先生方とともにサポート。「建設科では最新の測量機器なども揃えていますし、今はどの企業も機械を用いて行っていると思いますが、知識として基礎・基本を身につけることが大切。製図などもスケール感を養うため、手書きとCADを組合せた授業を展開しています。基本的なことを学ぶと同時に、未体験の最新機器に触れる。そうしたことも、生徒にとって大切な経験の一つです」

デュアルシステムの中での現場実習や出前授業を経て学びを深める生徒たち。現場見学会などにも積極的だ。「新築や解体の工事現場など、現場見学会は他に類を見ないほどの頻度で行っています。突発的に現場見学のチャンスが訪れることもあるため、あらかじめ調整のしやすい時間割を組むなど、実践的な学びの機会を重視しています」

建設科の新設にあたり、最新のレーザースキャナーなどの機器・機材を揃えるほか、明るく清潔感のある実習室や製図室なども確保。「環境を整えてあげることが、生徒が学ぶうえでも、生徒を集めるうえでも重要です。“建設DXなら横須賀工業高校”と謳われるよう、建設科の立ち上げ当初から設備投資には特に力を入れています」と山下先生

図っている。

「建設科に在籍する全生徒が学校での座学と外部での実習を並行して行う『デュアルシステム』は、神奈川県内では初めての取り組み。開始まで入念に協議を重ねて段取りを組んできましたが、蓋を開けてみないとわからない部分も多く、運用を通して課題も見えてきました。例えば、実習中の生徒への指示や管理の面です。実習日の朝、点呼をとって生徒を送り出すまでは教員のほうで見ることができるのですが、実習先では協会の方に見ていただく形になります。私たちに代わって授業を行っていただくので、教員がいない現場でどのように生徒に指示を出せばよいか、どのように生徒の動きを把握するかなどの戸惑いも生まれ、当初からすべてが円滑に運んだわけではありませんでした。ただ実習を終えるたびに協会側・教員側で意見をすり合わせる機会を設けて改善を図り、今はよりスムーズに運用できるようになってきました。どういった現場で実習を行うか、座学と実習のバランスをどうするかなど、来年度に向けての改善点なども抽出しながら引続き段取りと調整を重ね、より無理なく運用できる体制を整えていきたいと思います」。

周りの信望を得られる人材へ

「お世話になっていた方から“教職に就いてみては？”と勧められたことが、工業教育に携わるきっかけでした。教壇に立ってみて思うのは、私たちは“生徒に教える”というよりも“生徒から教わる”立場だということ。日々接する中で、うまくいくこともあればそうでないこともある。そのすべてがこちらにとって学びになります」。

山下先生が担任として受け持つ2年生（建設科の第1期生）も、いよいよ将来に向けて資格取得などに取り組みはじめている。

「今年は2年生全員が測量士補試験に挑戦しました。また3年生になれば、2級土木施工管理技術検定（第一次）などにも挑みます。合格という結果も重要ではあるのですが、本当に大切なのは受験に向けて動いた・挑んだという経験だと思っています。自ら動き、何かを経験する。それこそが主体的な学びとなり、企業などに入った後の成長にもつながります。もちろん本気で資格取得に取り組みますし、全力でサポートしていきます」。

生徒には学生生活を通じて、大切に育んでもらいたいものがあると話す。

「人に信頼される人材、人に頼られる人間になってくれたらと思います。専門的な技能や知識も大切ですが、3年間を通して育んでもらいたいのは、そうした信望を得られる“人としての質”です。目の前の仕事一つひとつに真摯に取り組み、成果を出すことで新しい仕事が回ってくるもの。それがいずれ信頼へと変わり、企業の場合は給与の向上などにもつながるはずです。私がよく使うのは、“将来を嘱望して、現状の発展を怠ることなかれ”というある鉄道技術者の言葉。先のことばかり考えて目の前のことをしないのでは何の発展もない、という意味ですが、まさにそのとおりだな、と。今できることをしっかり、確実にやっていこうというのは、私自身のポリシーにもなっています。今は目下、横須賀建設業協会の方やその関係者の皆さまとともにデュアルシステムを成功に導くことに注力しています。その取り組み一つひとつが、生徒が成長するきっかけになれば、それに勝る喜びはないですね！」

コレ推し！ 土木建造物

山下先生が挙げたのは、木曽川・長良川・揖斐川流域の広大なスペースと自然環境を活かして整備された木曽三川公園。「私の故郷である岐阜県、愛知県、三重県の3県にまたがる日本一広い国営公園です。大学での研究テーマが河川工学だったことや、この公園に関連した仕事に携わったことがあり、印象に残っています」

神奈川県立横須賀工業高等学校

〒238-0022　神奈川県横須賀市公郷町4-10

WEB https://www.pen-kanagawa.ed.jp/yokosuka-th/

バイデン大統領再戦への雲行きは？

米国の大統領選挙を占う３つのポイント

みずほリサーチ&テクノロジーズ　調査部長　安井 明彦

米国で2024年の大統領選挙への動きが活発化している。民主党のバイデン大統領が再選を目指す一方で、共和党では返り咲きを狙うトランプ前大統領などが、バイデン氏への挑戦権を得るべく、党の指名候補の座を争っている。今回は、外交政策の変化などを通じ、日本や世界にも大きな影響を与え得る米国の大統領選挙について、バイデン氏の再選の行方を占うポイントを紹介する。

大統領選挙への長い道のり

米国の大統領選挙は、4年に1回の頻度で行われる。投票日は「11月の第一月曜日の次の火曜日」と決められており、2024年の大統領選挙は11月5日が投票日である。投票日までには1年以上あるが、近年の大統領選挙は足掛け約2年に及ぶ長い戦いだ。

選挙戦の始まりは早い。現職で民主党のバイデン大統領は、23年4月25日に出馬を正式に表明し、再選を目指している。バイデン氏に対抗する共和党では、さらに早くから選挙戦が始まっている。共和党の候補がバイデン氏に挑戦するためには、まず予備選挙を勝ち抜いて、党の指名候補の座を獲得する必要がある。返り咲きを目指すトランプ前大統領は、バイデン氏より5カ月以上早い22年11月15日に、出馬を表明している。

バイデン氏に現職有利の追い風

再選を目指すバイデン氏にとって心強いのは、米国の大統領選挙が、再選を目指す現職大統領に有利であるという歴史だ。バイデン氏に先立つ45代の大統領のうち、党の指名候補になりながら、再選に失敗した大統領は11人しかいない。バイデン氏がこの現職有利の歴史を再現できるかどうかを占うには、３つのポイントがある。

第一に、党の結束だ。現職大統領が有利である一因は、早々に党内の支持をまとめやすく、対立政党の候補者のように、予備選挙に資金や時間を費やす必要がない点にある。1980年の選挙で再選に失敗した民主党のカーター元大統領や、同じく92年に再選を逃した共和党のブッシュ（父）元大統領は、党内をまとめることができず、予備選挙で有力候補と戦っている。

バイデン氏に対しては、民主党内から有力な対抗馬が出てくる兆しはない。無難に党の指名候補に決まる可能性が高く、第一の条件はクリアしていると言えそうだ。

第二のポイントは、経済の動向である。現職が再選を目指す選挙は、それまでの任期の信任投票の性格を帯びやすい。投票が行われる年の経済成長率が高いほど、現職にとっては有利になる。

2023年6月初めの段階では、バイデン氏の支持率は40％台で低迷している。しかし、過去の経験則からは、たとえ支持率が低い大統領でも、ある程度の成長率を実現できれば、再選されやすくなる。バージニア大学の試算によれば、過去の成長率と勝敗の相関関係が維持されるとすれば、バイデン氏の支持率が40％台前半で低迷を続けたとしても、24年第２四半期の実質経済成長率が１％台前半を超えれば、再選の条件をクリアできるという。

カギを握るリーダーシップへの評価

第三のポイントは、バイデン氏に過去の大統領と異質の弱点があるかどうかだ。再選を果たした過去の大統領と異なる弱点があれば、党の結束を維持し、一定の経済成長率を確保できたとしても、現職有利の再現は難しくなる。

懸念材料として指摘されやすいのは、バイデン氏の高齢だ。バイデン氏が再選された場合、二期目の任期が終わる2029年1月には86歳になる。今年の4月末から5月にかけて米国で実施された世論調査では、約7割がバイデン氏は「再選には高齢過ぎる」と答えており、メンタル面でのシャープさや体力面での懸念を指摘する回答が過半数を占めていた。

もちろん、政治家は年齢だけで判断されるわけではない。実際に、トランプ氏もバイデン氏より4歳若いだけだが、世論調査で高齢を懸念する回答はそれほど多くない。

むしろ注意する必要があるのは、バイデン氏の「高齢懸念」の裏側に、より本質的な弱点が隠れている可能性である。バイデン氏とトランプ氏で高齢への懸念の度合いが異なる背景には、リーダーシップに対する評価が影響している気配がある。トランプ氏への評価はさまざまだが、少なくとも共和党の支持者は「強いリーダーである」というイメージを持っている。対するバイデン氏の場合、リーダーシップの強さを評価する声は目立たず、とくに経済運営の手腕については、バイデン氏より大統領時代のトランプ氏に軍配を上げる割合が多い。

バイデン氏が現職優位を再現するためには、特に経済運営での実績を有権者にアピールし、「何かやってくれそうだ」というリーダーシップへの期待を立て直す必要がありそうだ。

建設業界にも押し寄せる生成AIの大波

日経クロステック建設編集長　浅野 祐一

ChatGPTをはじめとする生成AIが世間で大きな話題になっている。自然な言葉で質問を投げかけると、流ちょうな文章で回答を返してくれる。さらには、言葉による命令や依頼を受けて、画像も生み出す。建設業界の大手企業では、生成AIの業務利用を認める会社も現れている。生成AIをめぐる建設業界の動向を解説する。

言葉で質問を投げかければ、会話するように答えてくれる生成AI（人工知能）。ChatGPTに代表される対話型AIや、Midjourney（ミッドジャーニー）といった画像生成AIを、ビジネスにどう生かすのかが、大きな話題になっている。他の産業に比べて生成AIに対する認知度が低い建設業界でも、これらのツールとの付き合い方を考え始める組織は着実に増えている。

日経アーキテクチュアでは、2023年5月12日時点における生成AIの業務利用状況を、主要な設計事務所20社、建設会社20社、住宅会社15社にアンケート。26社から回答を得た。その結果、生成AIの業務利用を従業員に「認めている」という会社は、回答企業の27％を占めた。さらに、「対象者や業務内容を限定して認めている」という回答は12％となり、合計4割弱の企業が、何らかの形で生成AIの業務利用を認めていた。

大手ゼネコンでは、大成建設や大林組、竹中工務店が業務利用を認めるグループに入った。大成建設では、米MicrosoftのAzure OpenAI Serviceを利用した社内版ChatGPTの導入準備を進めているという。画像生成AIでは、大林組が米SRI Internationalと共同で建物の外観デザインを作成できる「AiCorb」を開発済みだ。

一方、生成AIの業務利用を「禁止している」企業は15％だった。半数弱の46％は「特に方針を示していない」という状況だ。大手ゼネコンでは、鹿島が利用を禁止。アンケート時点で「特に方針を示していない」と回答していた清水建設も、後に禁止にかじを切った。

業務利用については、そのルールづくりも急速に進みつつある。ルールの作成状況を尋ねたところ、「作成済み」が24％、「今後作成する予定」が64％と、回答企業の9割弱がルールの必要性を認識していた。

業務効率化や提案書作成に建設向けのサービスが続々誕生

では、生成AIを業務利用する際のメリットはどこにあるのか。また、デメリットとして何が考えられるのか。アンケートでは、期待と懸念点についても選択肢を提示。複数回答（3つまで）で選んでもらう格好で尋ねた。まずは期待する項目を見てみる。

最も期待が大きかったのが、「書類や議事録の作成など日常業務の効率化」で回答者の9割強に達した。これに続いたのが「情報収集の効率化」（65％）、「技術提案書などの作成効率化」（35％）だった。

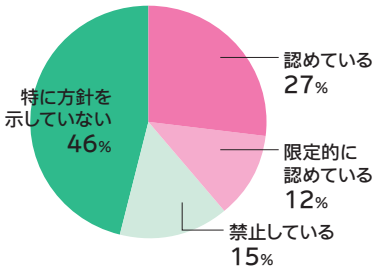
生成AIの業務活用において最も懸念されたのが「AIが作成した情報の信頼性不足」と「自社のノウハウや機密情報、個人情報の漏えい」で、いずれも回答者の85％に及んだ。「顧客から提供を受けた機密情報や個人情報の漏えい」（50％）がこれらに続いている。

大手企業以外にも生成AIの裾野が広がりそうな兆しも出てきている。生成AIを使った建設分野向けのサービスが続々と誕生しているからだ。例えば、将棋AIで名を上げたHEROZ。対話型AIのChatGPTに建設関連法規や社内基準などを追加で学習させて、個別の企業向けにカスタマイズしたサービスを提案している。

東京大学発のスタートアップ企業である燈（東京都文京区）は、建設業に特化させた大規模言語モデル「AKARI Construction LLM」の提供を2023年3月に始めた。対話形式での議事録や図面などの検索や、仕様書の文章生成などが可能になる。情報の正確さを確認しやすくなるように、引用元のデータも表示する。

生成AIの業務活用の動きは加速しているが、著作権などの扱いは、まだ議論が十分にまとまっていない。AIの学習段階での著作物使用は比較的ハードルが低いものの、利用段階では慎重な取り扱いが要る。業務活用では、こうした動きも注視しなければならない。

Q.「生成AI」の業務利用を従業員に認めているか



建築設計事務所は設計・監理業務の売上高の上位20社、建設会社が建築売上高の上位20社、住宅会社が販売戸数の上位15社を調査対象とした。2023年5月26日までに回答した26社を集計した（資料：日経アーキテクチュア）

2024年まで残りわずか!!

働き方改革への最終チェック

５年遅れとされていた建設業における時間外労働の上限規制の施行まであとわずかです。働き方改革は単に労働時間を削減することが目的ではなく、生産年齢人口が減少し、働き手が不足する中、限られた時間の中で成果を上げるといった生産性の向上が本当の目的なのです。とはいえ、社内の労働環境を一気に変えることはできません。1つ1つの取り組みを重ね、上限規制への対応を準備していきましょう!!

Profile
社会保険労務士法人
アスミル
特定社会保険労務士
櫻井 好美

【第4回】生産性向上への取組

チェック項目

- ☑ 労働時間が削減したことで給与は下がっていませんか？
- ☑ 適正な評価はしていますか？
- ☑ 生産性向上のための研修はしていますか？

■時間管理の次の課題

適正な労働時間管理を始めると、次の課題は仕事に対する評価になります。仕事の早い人は一定の時間で仕事を終えることができますが、仕事の遅い人は時間内で作業を終えることができないため、残業代が増えるという現象が起きます。よく「仕事ができない人にばかり残業代を払っているよ」という経営者の方のお話を聞きますが、それは、時間単位であげられる成果、いわゆる生産性に対しての評価が出来ていないのです。働き方改革は、早帰り運動でも会社の残業削減のための方策ではありません。今まで10時間かかった仕事を8時間で終えるような取組をすることなのです。そして適正な評価のためには、業務内容が見えないとできません。適正な時間管理とは、時間の記録をすることだけではなく、仕事の見える化も同時にする必要があるのです。

■評価の基準は？

今までの日本の雇用は終身雇用が前提であったため、給与は段階的にあがっていきました。それは、長く在職することで、その時間の経過と共に能力も上がっていくと考えられていたからです。しかしながら、ITの急激な進歩、外国人雇用も多くなっていく中で、同じ会社に退職までいるというケースは少なくなりました。そのため、評価の基準も「人」基準から「仕事・役割」基準に変化をしていく必要があります。「自分より年齢が上というだけで、自分の給与より高いのはおかしい」といった不満もよく聞きます。定着率を高めていくためにも適正な評価をしていく必要があるのです。

■会社の求める社員像とは？

評価といっても、そもそも会社が社員に求める基準が見えていなければ評価をすることができません。改めて、自社の社員にどのような基準を求めるかを明確にしていきましょう。仕事のスキルに関する基準、会社の中での求める役割、会社として何を大事にしていきたいのかを見える化していきましょう。技能職に関しては、建設キャリアアップシステム（CCUS）によりスキル基準が見える化ができるようになってきました。しかし、会社には、スキルの他にも部下育成に協力をする、チームワークを大切にするといった貢献度もあるはずです。CCUSを活用しながら、自社の能力基準を決めていくことも1つの方法です。

取組事例

きっかけ　きっかけは「これからの働き方」

「子供たちに建設業の未来を託す」というテーマでの会議があった際に、朝早くから夜遅く働くことが美徳といった価値観が崩れていきました。その後仕事も暮らしの中の一部と考えるなら、働き方も暮らし方も無理なく続けられる方法はできないか？というところから社員定着のための仕組みづくりを検討していきました。

事例紹介協力会社

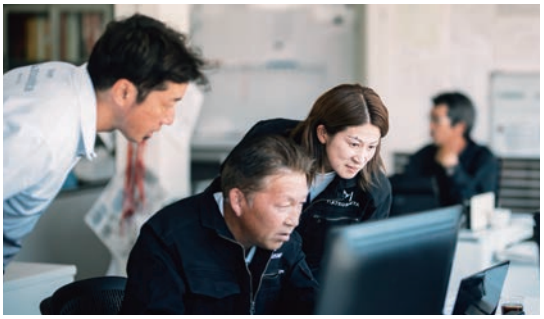
会　社　名：株式会社 松下組
所　在　地：熊本県葦北郡
業　　種：住宅事業、土木・建築工事、エネルギー事業
従業員数：65名

人事考課制度への取組

今まで、技術職も技能職も明確な人事制度がありませんでした。そのため、どのようなスキルがあり、どのような成果をだせば給与が上がるのか？というものが見えませんでした。そのため、社内で資格等級制度を導入し、それぞれの等級基準を明確にし、賃金との連動をスタートしました。特に技能職（職人）にあたっては評価という文化がなかったため、客観的な基準を作成するのに時間がかかりました。

社内研修の実施

定期的に外部講師を呼んでの社内セミナーを実施しています。まずは階層別セミナーを開催しました。指導者に対しては「指導者セミナー」として、リーダーシップ、部下育成のポイントについて学んでもらい、若手社員に対しては「若手向けセミナー」として、仕事に対する向き合い方等について学んでもらっています。階層にわけることにより、お互いの立場を理解することができ、仕事においてのコミュニケーションの重要性を認識してもらうことを主眼としました。



効率化について

時間管理については、勤怠アプリを導入しました。これは、わざわざ現場が終わってから会社へタイムカードを押しにくる移動時間がムダではないか？と思ったからです。この勤怠アプリも自社用にカスタマイズし、現場名も選べるようにしました。そのため、管理部門の社員も誰がどの現場に行っているのかわかるようになり、社内でのコミュニケーションが円滑になりました。

今後の課題

生産性の向上には、社員教育は重要だと感じています。今は階層別の研修からスタートしましたが、今後は個々の自己啓発に関する研修等も取り入れていきたいと思っています。人生において大半の時間を占める仕事という時間を、社員の生活の中にどう取り入れていくのか？ということを考えながら社員の定着を図っていこうと思っています。

まとめ

ライフステージにより仕事に対する考え方は変わります。例えば、新入社員の時は、もっと知識をつけたいので、仕事の時間をとりたいと思うときもあり、家族が増えれば家族との時間を大切にしたいという時期があり、また自分のまわりで介護者が出れば今までのような働き方が出来なくなるケースもあります。今後、定着率を高めていくためには、多様な働き方に対応する仕組みづくりが重要です。そして多様な働き方に対応するためにも、「仕事・役割」基準の評価の構築が重要になってきています。

クイズ 名建築のつくり方

第12回

洞窟のようなゴツゴツ壁、どうやってつくった?

世界から注目される日本の建築家の1人、石上純也氏。
これまでは細く薄い構造材や精緻な仕上げによる
繊細な空間で注目を集めてきた。
ところが、近作では一転、
原始的で力強い空間をつくり上げた。

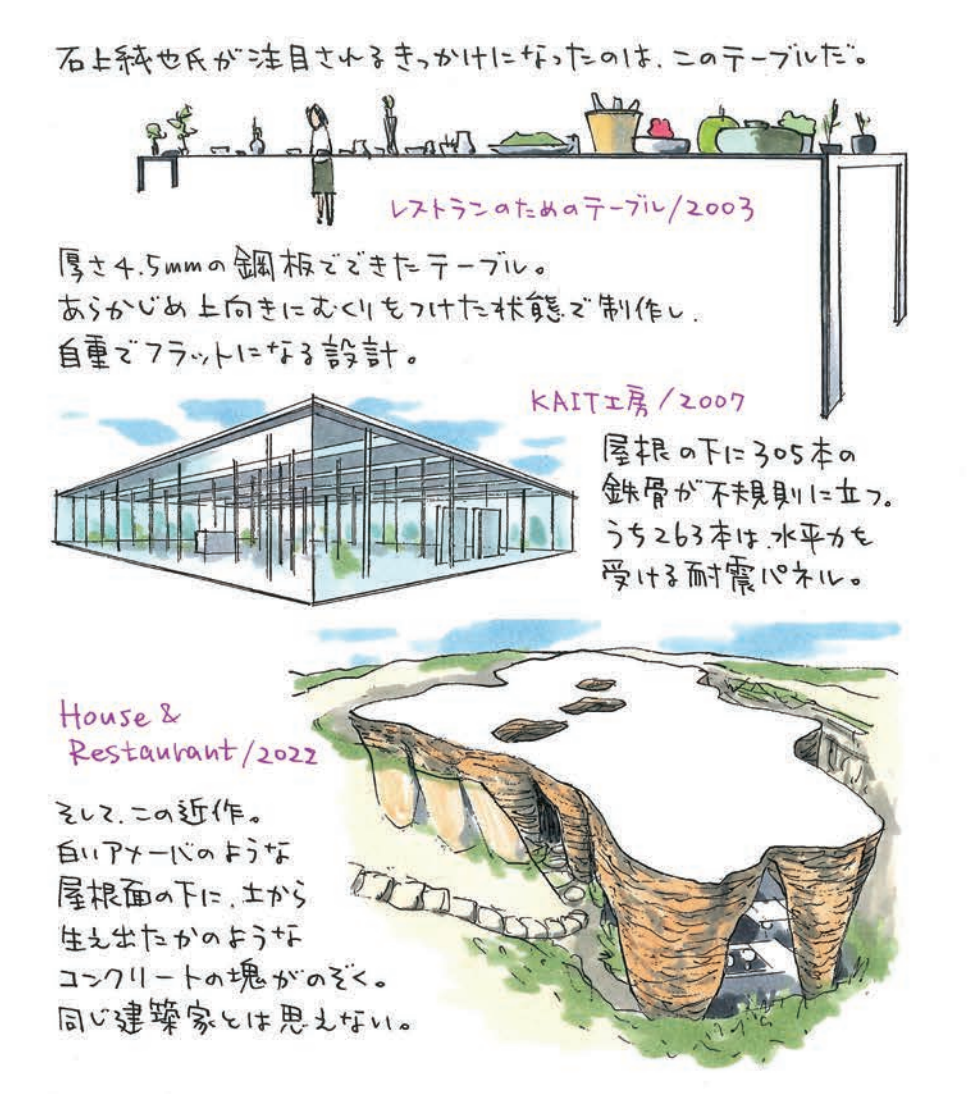
House & Restaurant

■所在地:山口県宇部市
■施工者:アキタ建設
■構　造:鉄筋コンクリート造
■竣工年:2022年3月
■設計者:石上純也建築設計事務所
■延べ面積:195.41㎡
■階　数:地上1階

クエスチョン Question 問題

**洞窟のように
ゴツゴツした壁面は、
どうやって施工した?**

1. 土を掘った穴を型枠としてコンクリートを打設した。
2. 伐採した木の樹皮を型枠としてコンクリートを打設した。
3. 3Dプリンターを用いて型枠を使わずコンクリートを打設した。



アンサー A 1 土を掘った穴を型枠にした

建築は、「洗練」と「力強さ」の間を振り子のように振れながら進化を続けてきた。1人の建築家の中でも、その振り子は大きく振れることがある。

石上純也氏の近作「House & Restaurant」(山口県宇部市)は、まさにそんな建築だ。石上氏といえば、出世作の「レストランのためのテーブル」(2003年)や、日本建築学会賞作品賞を受賞した「神奈川工科大学KAIT工房」(2007年)、ヴェネチア・ビエンナーレのインスタレーション「Architecture as air」(2010年)など、繊細さを極限まで突き詰めた建築で世界を驚かせてきた。

2022年春に宇部市に完成した近作は、逆のベクトルで見る者を驚愕させる。「House & Restaurant」という名称は雑誌での発表名で、実際は「maison owl」というフレンチレストランだ。“洞窟レストラン”と呼ぶ人も多い。石上氏が友人のオーナーシェフの依頼で設計したもので、住居を併設している。

現地で驚くのはまず、外観が見えないこと。建物は鉄筋コンクリート造・地上1階建てで、擁壁により1階分ほど高くなった敷地に、掘り込まれる形で立っている。前面道路からは全く見えない。擁壁に上がると突然、アメーバのような白い屋根面が目の前に広がる。

そして、建物本体が周囲の斜面と同じ土色であることに驚く。表面はゴツゴツ。「昔からここにあるような建物に」という建て主の依頼が、想像を超える形で実現している。

上部躯体の後に基礎を打つ

これをどうつくったのか。設問の三択の中では、(3)の「3Dプリンターを用いて型枠を使わずコンクリートを打設した」が一番石上氏らしいように思える。が、現在の技術ではここまで大きなものは難しい。型枠は使った。だが、普通の合板の型枠ではない。答えは(1)の「土を掘った穴を型枠としてコンクリートを打設した」だ。

敷地は約1000m²。大きくは西側が住宅で、東側がレストラン。間に中庭がある。全く不規則な形にも見えるが、構造的にはベタ基礎の上に大小のアーチが多方向に広がる形となっている。

これを反転させた穴を掘り、「土型枠」にする。まずは、躯体の3次元データを基にレーザー光線の立体座標でポイントを決める。穴の深さは3mほど。柱の径が小さい部分には重機が入らないため、ほとんどが手掘りだ。掘る穴によっては、1人しか入れない狭い箇所もあった。

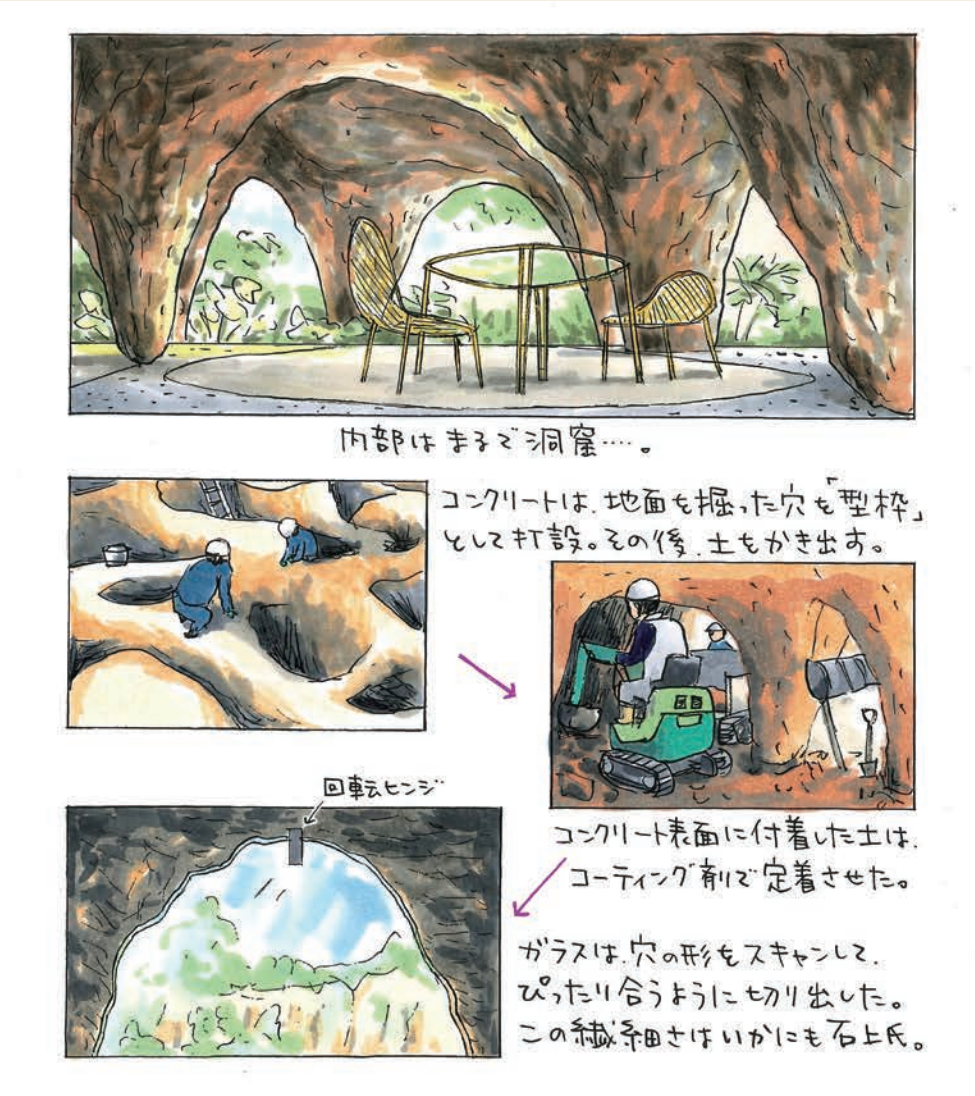
掘った穴を型枠として、中に鉄筋を組み、コンクリートを打設する。コンクリートは約450m³。コンクリートが硬化したら、型枠となっていた土をかき出す。その後、下部に配筋を組み、ベタ基礎を打った。

穴に合わせてガラスを切断

表面のゴツゴツは、穴を掘ったスコップの痕跡だ。土のように見える色は本当の土。石上氏は当初、コンクリートの表面を高圧洗浄して、岩のような建築にすることを考えていたという。だが、土をかき出した躯体を見て考えが変わった。そこには、敷地の地層が写し取られていた。表面を軍手でこすり、ある程度まで土を落とした後、コーティング剤で土を定着させた。

現地を訪れると、原始的な力強さとともに、石上氏らしい繊細さも感じる。理由の1つは造り付け家具だ。カウンターや洗面台なども現場打ちのコンクリート製。躯体のゴツゴツとは対照的な、工業製品のような平滑さに唖然とする。

もう1つの理由が開口部のガラス。計35か所のガラスはすべて1枚ものだ。不整形な開口部の形を3次元スキャンし、ガラスを正確に切り出してはめた。11枚は開閉式で、中央上下のヒンジを軸として回転する。こんなガラス加工があるのかと、そこで最先端を感じさせるところが石上氏らしい。



イラスト・文

宮沢洋:
画文家、編集者、BUNGA NET編集長。1967年生まれ。2016年～19年まで建築専門誌「日経アーキテクチュア」編集長。2020年4月から編集事務所Office Bungaを共同主宰。書籍「建築巡礼」シリーズのイラストを担当

参考文献・資料

『日経アーキテクチュア』2008年3月24日号、同2022年8月11日号、『新建築住宅特集』2020年7月号、同2022年5月号

建設キャリアアップシステム 第10回 を活用しよう！

事業者登録の更新について

～本年10月より、事業者登録の更新手続きが始まります～

2024年3月末でCCUSの本運用開始から5年となります。初期に登録いただいた事業者の方から順次、事業者登録の更新期を迎えることから、2023年10月から更新手続きの案内を開始する予定です。

更新手続きについては、登録責任者*様あてメールにてご案内します。

＊「登録責任者」とは、事業者登録の手続きを行った際に、登録責任者としてお名前とメールアドレスを登録されている方です。

【更新手続き案内メールの発送時期】

- 第１回メール：有効期限の6ヶ月前
- 第２回メール：有効期限の2ヶ月前＜手続き未了の方のみ＞
- 第３回メール：有効期限の1ヶ月前＜手続き未了の方のみ＞

併せて、CCUSホームページにも掲載します。

更新時の申請は、新規登録と同様に、インターネット申請（CCUSホームページ）又は認定登録機関での申請をお願いします。

- 自社の登録有効期限がいつなのかを確認する方法はFAQのNo.4557をご覧ください。 ▶▶▶
- 事業者登録の更新についてはこちらをご一読ください。 ▶▶▶

上記二次元コードの内容は下記サイトからもご覧いただけます。
しんこうWeb：https://www.shinko-web.jp/series/

監理技術者講習

オンライン講習 好評開催中！

☑ 受講日 変更可能

☑ 講習料の支払 手数料無料

一般財団法人
建設業振興基金

FAX or インターネットからの簡単申込
https://www.fcip-ko.jp/

講習受付センター
TEL.0570-081-812 FAX.0570-081-882

(202301)

FRONTIER フロンティア

建設の最前線へ！

PROFILE

善光（ぜんこう） 拓磨（たくま） さん

加賀建設株式会社

富山県出身

「風景を自分の手で変えていく!」巧みな技と経験で、海や河川の安全を守る海洋土木工事。

クルーズ船やコンテナ貨物船など、多くの船舶が寄港する石川県の金沢港。そうした船舶が安全に航行できるよう、海底に堆積している土砂を取り去る『しゅんせつ工事』に取り組むのが、加賀建設株式会社の善光拓磨さん。「同じ海の上でも、日によって風も潮の流れも違います。その時々に応じた判断を求められる海洋土木工事は、とても緊張感の高い仕事。ただ、仕事が終わればリラックスして和気あいあいと話せる、メリハリをつけて働ける現場です」。そう笑顔を見せる善光さんは、作業船団の甲板員として活躍するとともに、揚錨船（ようびょうせん：作業船を海上に係留するためのアンカーの設置・移設などを行う船）の船長を担い、ICT機器を巧みに操り工事を進める、現場に欠かすことのできない存在だ。

2年前から本格的にICTを取り入れたしゅんせつ工事に取り組んでいる同社。善光さん自身もICT活用の効果を実感している。「GPSによりリアルタイムで船の位置や傾きがわかるようになり、周囲の水深なども正確に把握できるようになりました。土砂をさらった後の海底の形状などがモニターで確認できるようになったことも、非常に大きいです。今までは経験に基づきながら捉えていたものが可視化されたことで、より効率的に作業を進められるようになりました」。

今や第一線で活躍する善光さんだが、入社前は海洋土木工事は未知の領域だった。「単に船を動かす仕事ではなく、ものづくりができる仕事がしたいと考え、加賀建設に入社しました。正直、海洋土木工事についてはほとんど知らなかったのですが、会社見学に訪れた際に“こんな船もあるんだ”“こんな仕事も面白そう”と感じたのが決め手でした」。最初の現場では、驚きの連続だったそう。「慣れない専門用語が行き交う中、どのように測深を行っているのかも分からず、すべてが新鮮でした。また、しゅんせつ工事に用いる台船は素材が鉄なので、夏はとにかく暑い！雨や雪との戦いに加え、船酔いとの戦いなど、陸の仕事では味わえない体験もありますね（笑）」。

そうした困難を乗り越えて、やるべき仕事を無事に収めた時の達成感はひとしおだ。「今も印象に残っているのは、防波堤の延伸工事の仕事。普段から通る海沿いの景色が自分たちの工事により変わっていく様子を見て、“風景を自分の手で変えていく”という何ものにも代えがたい喜びを感じました。まさに建設業ならではの醍醐味だと思います」。また会社によるバックアップも、善光さんの力の糧になっている。「給与面は働くためのモチベーションとしてもちろん大きいのですが、資格取得を応援してもらえるサポート体制や社風もすごくありがたいと感じています。建設機械施工技士資格を取得したのも、周りの勧めがきっかけでした。今後も現場で役立つ資格をさらに取得していきたいと思っています。ICTを取り入れた今でも、まだまだマニュアル化することのできない仕事や、培ってきたスキルに頼る微細な作業も数多くあります。能力や経験を活かしながら、これからも船舶の安全確保・海洋の汚濁防止に配慮した海洋土木工事に取り組んでいきたいです」。

Great Job!（グレートジョブ）

加賀建設株式会社 代表取締役社長

鶴山 雄一 氏

創業80周年の節目を迎える当社では、担い手が不足する中で様々な状況にチームとして対応できるよう、現場と本社が連携する設備を強化した新たな社屋を設けました。今後も働く方の「学び」を支えていくため、様々な資格取得のサポートをはじめ、業務習得のためのOJT、給与や報酬の見える化などを積極的に推進し、新たな技術を活用しながら、次世代のために企業も個人も、そして地域も、いっしょに成長していける取り組みを続けていきたいと考えています。

建設人材育成優良企業表彰『不動産・建設経済局長賞』を受賞

建設業しんこう

Jul. / Aug. 2023 No.550

令和5年8月10日発行
第48巻 第4号 通巻第550号

■編集・発行 一般財団法人 建設業振興基金

〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-2-12虎ノ門4丁目 MTビル2号館